

みぶ町政だより

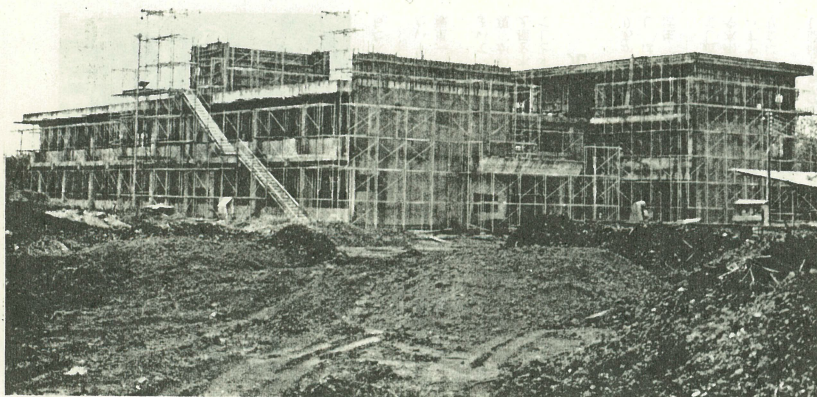


5 月号

昭和51年5月24日発行

発行所 栃木県壬生町役場（毎月24日発行）

昭和34年9月30日第三種郵便物認可一部9円



新設小学校建設が50%できる

昭和50年度および51年度の継続事業として、新設小学校の建設を進めておりますが、ほぼ50%ができ上がりました。

開校を来年4月目標に、着々と進み、現在までコンクリート打ち込みが終ったところです。

5月末には、窓わくが付き、全体の50%の進行状況です。

普通教室16室、特別教室5室となり14学級で開校する予定です。

今月の人口

5月1日現在 対前月比

総人口 31,204 141人増

男 15,472 37人増

女 15,732 104人増

世帯数 7,895 114世帯増

6月は“環境整備の月”です（まず家のまわりからきれいにしましょう）

お知らせ



職員募集

役場では、次の要領で職員の募集を行います。

○職および採用人員

①じん芥処理取扱職員

男子 二名

②保健婦

一名

○資格

①は、本年七月一日現在で満四十五歳までの者

②は、有資格者で年齢は①に同じ。

○手続

申込用紙請求先 役場総務課へ提出 先

○締切日 六月十五日

○採用予定日 七月一日

6月の納税

お忘れなく
町県民税
第一期分

赤ちゃん

健康相談

●とき 六月十一日(金) 十八日(金)、七月一日(金)

●ところ 時間は、十時から三時 中央公民館健康室

●該当児 検診を受けなかったお子さんおよび九カ月、一年児

●持参するもの

母子健康手帳を忘らずに

三カ月児検診

●とき 六月十六日(水)

●ところ 午後一時三十分から 中央公民館健康室

●該当児 二月二十日から三月十日までに生まれのお子さん

母子健康手帳を忘らずに

一般健康相談

家族計画から成人病などの相談についてお気軽にお出かけください

●とき 六月十六日(水) 午後一時三十分から 中央公民館健康室

●該当児 二月二十日から三月十日までに生まれのお子さん

母子健康手帳を忘らずに

一般健康相談

家族計画から成人病などの相談についてお気軽にお出かけください

●とき 六月十六日(水) 午後一時三十分から 中央公民館健康室

●該当児 二月二十日から三月十日までに生まれのお子さん

母子健康手帳を忘らずに

一般健康相談

家族計画から成人病などの相談についてお気軽にお出かけください

当番医師のお知らせ

六月の日は、次の医師以外は全部休診になります。

日	町名	医 院 名	電 話
六日	安塚	島田 医院	0011
十三日	上通町	小倉光 医院	0057
二十日	仲通町	木村 医院	0056
二十七日	上桶瀬	渡辺 医院	1033

時間は午前九時から午後四時

●とき 六月二十五日(金) 十時から一時まで

●ところ 中央公民館健康室

妊婦検診

●とき 六月十四日(卯) 一時三十分から二時三十分まで

●ところ 母子健康センター

●該当者 壬生町に居住する全妊婦の方。また、結婚される方の血液検査も併せて実施していますので、ご利用ください。(無料です。)

廃大引き取り日

●とき 六月九日(水)

●ところ 〃 二二二日(水)

●場所および時間

役場本庁 九時十分まで

南木銅支所 九時三十分まで

種葉支所 九時五十分まで

●大は、ついで伺いましょう。



183

壬生町古代文化の基盤

豊城命の子孫は、代々東国の国造や橘置、県主等に任命され上野下野の古い神社の中には小山市寒川の胸形神社(延喜式内社)小山市間々田の安房神社(延喜式内社、宮司神社、柳木市田)の如く崇神朝に創建されたと云う伝承を持つ神社がある。豊城命の伝承を持つ鷲宮神社(石橋町橋本所在)、山神社、粟野町柏木所在、彦俣島王、御前山王その弟赤松山王に關係あると云われる神社も多い事に注目する必要もあろう。前述した大道は、幾内より東国に通ず今日の国道に匹敵する道路であった。

東国から幾内に至るのもこの道路を通った。

そして、壬生町は、この道路の治縁に位置する関係上、壬生の文化発展の基盤になった諸々の条件は、これが遠境に負うところが多い。

古墳文化にしても仏教文化にしてもこの大道を通じて中央文化が流入して来たのである。

国府が下野統治の中心だったからその国府は、小倉川を隔てた目と鼻のところにあり、聖武天皇の頃に日本三聖境の一として建立された園分寺境を接した園分寺町にあり、各僧行基の開山になる大慈寺も小野寺にあった。

この環境を持つ壬生の文化がどうして何の影響もけない善はないのである。

壬生より出てた僧侶に、慈覚大師は、大慈寺の住職、広智菩薩の弟子であり、現壬生寺に生湯を使つたと伝えられている。

日ノ岡山で有名な勝道上人は、父は園府に勤め、母は芳賀の人で同じく園府に有様の人その間に生れて鎌宗と言つた人である。

彼も近くに薬師寺や園分寺が無かつたしたら山岳宗教の道に入り難行苦行の道は通はなかつた事であらう。

この続きを書くつもりであったが、都合により次回からは前教育の藤田先生筆を執られることになりましたので、私の「壬生史話」の執筆はこの辺で終了と致します。長い間民のみなさんご愛読をいただきました事を有難く感謝致してお礼といたしまし「大塚 八郎」

お知らせが出来ますから早く配布しましょう。